



No Image

※注:これまで大手4社に、原稿を使用するお願いの電話をしましたが、1社については、許可を得るための手続きが大変煩雑であったため、学校だよりへの掲載はしていません。ご了承ください。

十二月二十六日  
読売新聞

く周え分くれ 人ド切残島戦うが  
 るりるがな、戦間。なしの争こみぼ  
 のもよ笑る亡争の全。人ま人にとんく  
 のも明うっそくを汚いを、したちいとじと  
 不るにてうな続を熱戦。のて思やっ  
 可くなりたでっけ心無慈悲にのびまなくの  
 能なりたく。人うそのもの傷つける戦争は、イ  
 では、い。平。その人ぼくは、救  
 不。和。うすれをば、つ

笑顔を広げれば  
 きっと平和が来る  
 六年 男子児童

## 無用の用

『無用の用とは、役に立たないと思われているものが、実際は大きな役割を果たしているということ』パソコンで調べるとそう載っていました。恥ずかしながら自分は、今までその意味をよく知らなかったもので…。

とある研修会で聞いた話ですが、「保護者と出会ったときに、(お天気やそのときの話題等)特に意味のない会話ができなければ教師はつとまらない」とのこと。つまりそれは、コミュニケーションの大切さを講師先生は言いたかったのではないのでしょうか。

私(わたくし)が30代の頃だったでしょうか。もちろん担任をしていたときです。個人懇談会が年に2回あったので、家庭訪問と合わせると保護者の方と話をすることが年に3回ありました。もちろんその際に、保護者の方から子育てや家庭教育について相談されることも多々あったわけで、今から思いかえすと思わず赤面することも言っていたような記憶もあります。できる教師、たよりになる担任と思われるためには、疑問・質問に対して迅速かつ的確に答えることが必要と思い込んで

No Image

【裏面へ続く】

いた自分は、それこそ頭をフル回転。言葉を探し、本の言葉を受け売りをし、結果うまくいったと（自己）満足し一人悦に入っていたものです。

以前N●Kで、福島県のとある町の消防署員さんが無人の町を定期的にパトロールしているニュースを見ました。通常の仕事以外にたくさんすることもあり、住人の相談や話し相手にもなっているとのこと。若い署員さん自身、『これらは消防の仕事ではないのでは』と疑問を抱きながらもその姿は真摯に対応していました。



もっと身近な話を紹介しましょう。自分が住んでいる地域の警察の方は、いつも歩いてパトロールをしていました。勝手な想像で申し訳ないのですが、歩かないと見えない・気付かない・わからないことがあるという信念のもとに、春夏秋冬、地域を巡回してくれていたように見えました。最初のうちは気付かなかった近所の方も、そのうち「あの警察の人、いい人や」と話すようになっていました。具体的にどうのでもなく、とにかく「いい人」なのです。

地域や職場、家族や親類とそれぞれ自分たちを取り巻く『社会』は様々で、自分もそれぞれいろんな場面で挨拶やお天気の話から始まってニュースや時事ネタなど、結局は特に意味のない話をすることも多々あります。もちろん相手の年齢や性別、親しさや付き合いの程度などを考慮しての会話ですが、それが普通にできてこそ『社会』人であるということなんでしょうか。話が一方通行ではコミュニケーションは成立しません。それも業務連絡的な内容だけでは相手もそのような態度になってしまうでしょう。それは相手が子どもでも大人でも同じことだと思います。

『無用の用』いい言葉ですね。